

令和4年度地域運動部活動推進事業 休日の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書（概要）

奈良県

（地域における現状・課題）

- ・本県のモデル地域として取り組んだ3市村（生駒市、香芝市、明日香村）の現状は下記の通りである。
【○】生駒市（3）・・・全8中学校（生徒数約3,100名） 【◇】香芝市（5）・・・全4中学校（ 〃 約2,500名）
【☆】明日香村（26）・・・全1中学校（ 〃 約100名） ※（ ）内の数字は県内39市町村での人口順。（○◇☆は右記地図参照）



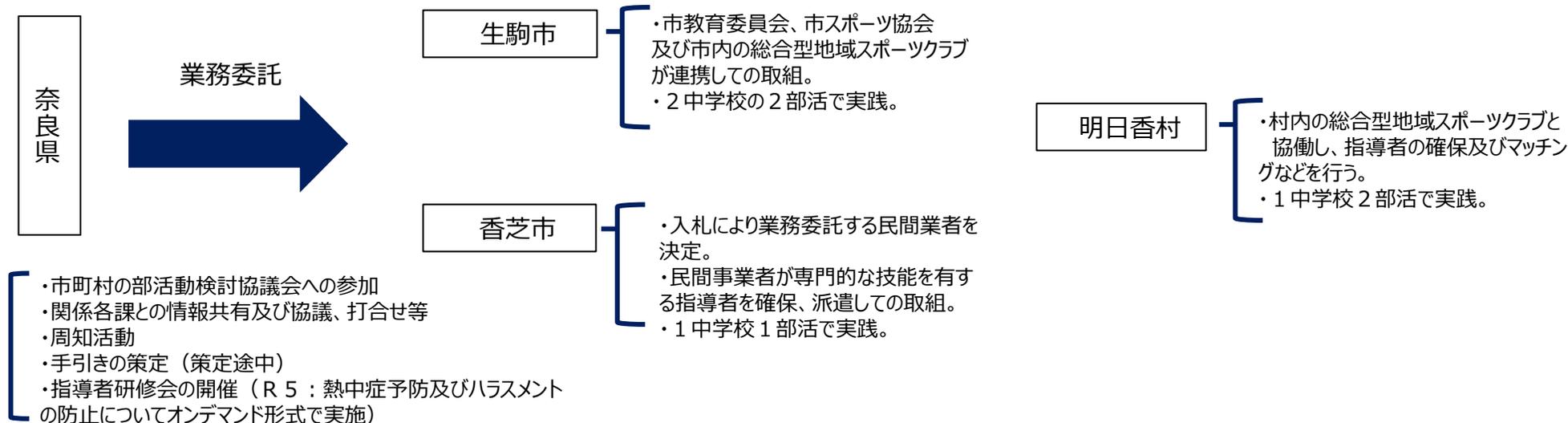
（地域移行の推進に向けた体制整備の取組概要）

- ・関係各課との協議及び検討 ・市町村における協議会への参加（情報提供及び情報交換など） ・市町村からの相談対応
- ・保護者等への周知（県PTA Web広報誌「かがやき奈良」への記事掲載） ・先進的な都道府県の事例を参考にし、「学校部活動の地域連携並びに地域の運営団体・実施主体による地域クラブ活動への移行に向けた制度設計の手引き（仮）」の策定。 ・年度末の実践報告会の開催

（実践研究の成果）

- ・主管課である本課の働きが十分でなかったとのモデル地域からの率直な意見があり、「本県が目指す学校部活動から地域クラブ活動への移行に向けた方針等」を明確にし、更なる助言及び必要な指導体制を整えていく必要性がある。
- ・スポーツ庁の補助事業等を活用しながら、本事業の主管課である本課の人員を増員する予定であり、県下全域における学校部活動の地域クラブ活動への移行が少しでも円滑に進むよう、市町村毎の進捗状況をしっかりと把握し、情報提供及び助言していく。

（運営体制図）



令和4年度地域運動部活動推進事業 休日の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書（概要）

明日香村

（地域における現状・課題）

実施校は本村唯一の中学校であり、全校生徒数は100名強の小規模校である。生徒数の減少に伴い、運動部活動数も少なくなっている。しかし、生徒や保護者からの要望もあり、複数の運動部活動が活動を継続している。既に、総合型地域スポーツクラブ「楽スポあすか」と連携して活動を行っている運動部活動もあるが、全ての運動部において地域移行となると、受け入れ先や指導者の確保が大きな課題である。

（地域移行の推進に向けた体制整備の取組概要）

運営主体：明日香村教育委員会、総合型地域スポーツクラブ

活動場所：中学校

指導者：総合型地域スポーツクラブ所属の指導者

移動手段：学校での実施

責任主体：明日香村教育委員会、総合型地域スポーツクラブ

活動種目：バスケットボール、ソフトテニス

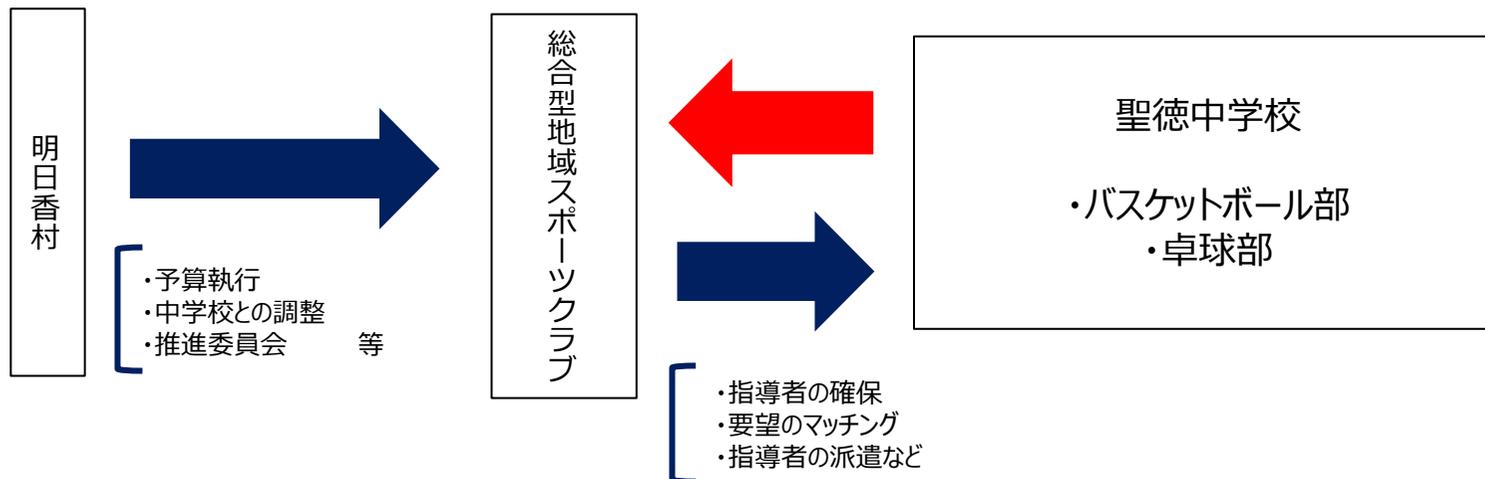
会費等：徴収なし

保険：800円（スポーツ安全保険）

（実践研究の成果）

学校と地域で指導にあたる指導者とのすれ違いから、年度末からは、地域活動等がうまくいかない現状も見られた。指導者については、「学校の部活動がこれまで培ってきた意義を理解し、学校と連携しながら指導にあたることのできる人材の確保」、学校については、「今までの学校部活動が地域スポーツクラブ活動へと移行していくことへの理解を求める取組（生徒及び教員）」の双方をより充実させていくことが重要である。

（運営体制図）



令和4年度地域運動部活動推進事業 休日の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書（概要）

生駒市

（地域における現状・課題）

市内にある8中学校の運動部活動について、全ての運動部活動に専門的に指導できる教員は配置できないため、専門的に指導できる教員がいない部活動に対しては、積極的に部活動指導員を配置している。毎年的人事異動で指導者が不足する運動部活動も変わるため、年度ごとに、部活動指導員のニーズも変化する。そのニーズに合わせた指導者の確保が課題となっているが、部活動の地域移行についても同じことが課題といえる。また、昨年度本事業を実施したが、休日の部活動を完全に地域に任せて、教員の負担を軽減することは現実的には難しかった。どのように休日の活動を地域に任せていくのかは大きな課題である。

（地域移行の推進に向けた体制整備の取組概要）

運営主体：生駒市教育委員会・生駒市体育協会及び総合型地域
スポーツクラブ「いこ増ッスル」

活動場所：各中学校

指導者：生駒市体育協会登録指導員

移動手段：学校で活動している

責任主体：生駒市教育委員会・生駒市体育協会及び総合型地域
スポーツクラブ「いこ増ッスル」

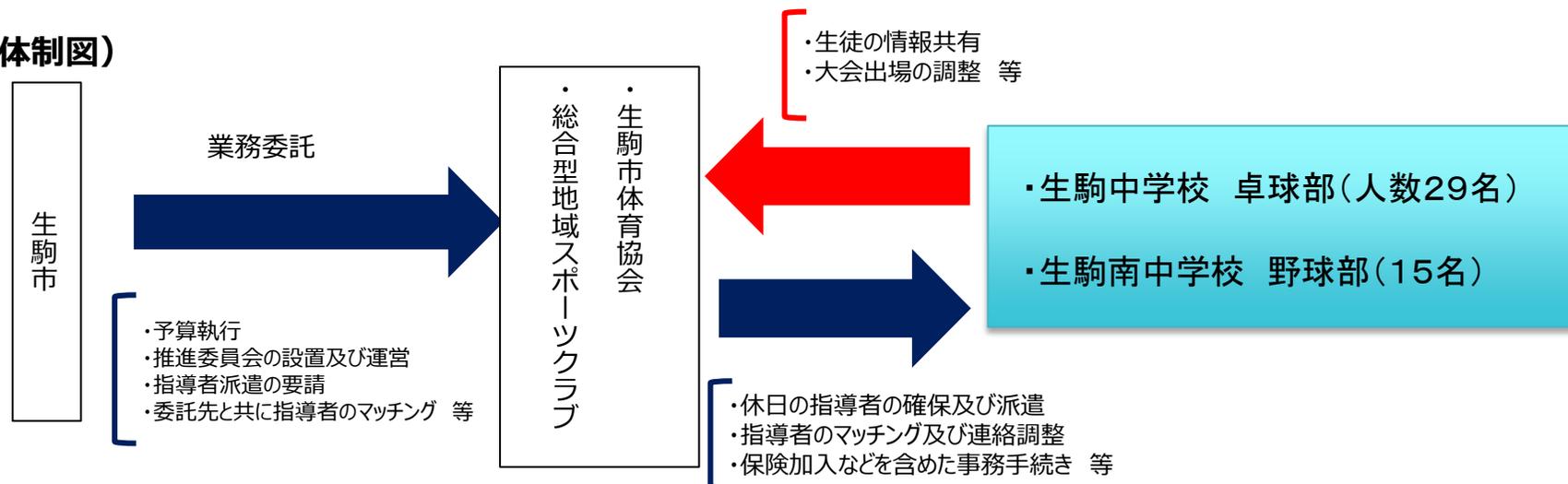
活動種目：卓球、野球 会費等：徴収なし

保険：1,450円（スポーツ安全保険）

（実践研究の成果）

- ・専門的な指導によって、生徒の活動が充実した。
- ・受け皿団体との連携を深めることができた。
- ・市が配置する部活動指導員とも連携しながら実施できた。
- ・顧問の技術指導の負担減により心理的な負担の軽減にもつながった。

（運営体制図）



令和4年度地域運動部活動推進事業 休日の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書（概要）

香芝市

（地域における現状・課題）

地域移行する場合、必要経費は家庭負担を想定しているが、移行途中のアンバランスや、部員数による不公平感が顕著にならないような工夫が求められる。
学校教育活動における「部活動の意義」の有効性についての声が大きく、地域移行についての否定的な意見も多いため、生徒・保護者や教員の理解を得て進める必要がある。

（地域移行の推進に向けた体制整備の取組概要）

運営主体：香芝市教育委員会

活動場所：中学校体育館

指導者：市と委託契約を締結した民間事業者が派遣する指導者

移動手段：学校での活動

責任主体：香芝市教育委員会及び民間事業者

活動種目：卓球

会費等：徴収なし

保険：800円（スポーツ安全保険）

（実践研究の成果）

- ・1部活2名体制は、事故や怪我が発生した際の迅速な対応が可能であり、今後も必要であると感じる。
- ・当面の財源確保及び今後の部活動（まずは休日）は、学校から切り離したもの（習い事同様に受益者負担である）になるという認識を、保護者及び関係者に広く周知していく必要がある。（市単独では限界もあるため、県との協働も）
- ・即時に移行が難しい学校部活動も想定されるため、部活動の地域連携（部活動指導員の有効的な配置と確保等）についても、同時進行で検討及び実践していく必要がある。

（運営体制図）

